

派遣報告書（報告者：小田原康弘）

大会名	第 45 回全九州中学生バスケットボール春季選手権大会
開催地	鹿児島県
日 時	令和 7 年 2 月 22 日（土）～ 23 日（日）
担当ゲーム 1	（男子 1 回戦） 佐賀バルナーズ U15（佐賀県） vs WAGUS U15（長崎県）
クルー	CC:山中萌衣 U1: 小田原康弘 U2: 倉掛啓輔
担当ゲーム 2	（男子準決勝） KOGAKURA VICTORY（長崎県） vs ライジングゼファーフクオカ U15（福岡県）
クルー	CC: 渡久地洋樹 U1: 小田原康弘 U2: 大津廉
（担当ゲーム） Pre-Game Conference	
<佐賀バルナーズ vs WAGUS U15> ・Iot の確認 ・メカニクスの確認 ・処置ミスゼロ <KAGOKURA VICTORY vs ライジングゼファーフクオカ U15> ・メカニクスの確認 ・処置ミスゼロ ・インサイドプレイヤーに対するの守り方	
（担当ゲーム） Post-Game Conference	
<佐賀バルナーズ vs WAGUS U15> IR 山口憲昭 ・クルーワークの良さ。 ・プレーの予測をし準備をすることが大切。センターライン付近でのトラップに対応するために、リードのスイッチのタイミング。 ・ゲームの流れを読み、取り上げたものをよりこのゲームに合うように味付けをしていく。 <KAGOKURA VICTORY vs ライジングゼファーフクオカ U15> ・インサイドプレイヤーに対するの守り方。ベンチともコミュニケーションを取りながら対応できていた。 ・ゲームの流れを読み、取り上げたものをよりこのゲームに合うように味付けをしていく。プレゼン。	
今大会に参加しての感想など	
今回の九州中学では、2 試合担当させて頂きました。年々レベルが高くなり、高校生と比べても遜色がないタフなゲームが続き緊張感のある試合ばかりでした。 今大会で感じたことは、同じ判定であってもそれをどう見せるのか。よりゲームの流れを読み、マッチした判定にする難しさがありました。間の使い方やプレゼンテーションの向上が課題になりました。また、センターライン付近でのトラップやその次のプレーを予測することで、様々な準備ができるので、改めて重要だと感じました。プライマリーエリア外でファールが起こる時間帯が続き、少し不安になることがあったが、無理して鳴らすことがなくゲームを終えることができたのは、プライマリーの理解の手応えを感じた。 今回の派遣に際しまして、大分県バスケットボール協会の関係者の皆様をはじめ、多くの方々に理解と応援をいただきました。心よりお礼申し上げます。また、鹿児島県バスケットボール協会の方々におかれましては、全中に向けて、よりプレイヤーがパフォーマンスを発揮しやすいように審判技術の向上に取り組もうとする情熱を感じました。今大会を大きな経験として、これからも研鑽に励むとともに、県内にも還元できるよう取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございました。	